

7月22日、成田勤労会館において第24回定期代議員総会が開催されました。

定足数確認	代議員総数	14名	定足数	10名		
	出席代議員数	12名	委任	2名	欠席	0名

まず初めに、赤坂委員長から、開会の挨拶として欧州経済危機、中国経済の減速で大きな影響を受けるエクスプレス部門の状況悪いがフェデックスコーポレーション全体では米国のトラック部門が好調でその増収分で帳尻を合わせる事が出来ており、航空の貨物をトラックにシフトしてサービスの提供をしていることでこのような結果がでているが、全体の貨物量が落ちているわけではなくフランスやメキシコの運送会社の買収、新型機の購入を行っており、FY12もフェデックスは黒字であると会社の情勢について述べた。今回の代総には南港から2名の代議員が参加している事に加え新しく名古屋支部から立てた代議員が参加している事を挙げて、新しい方面での組織拡大を図り会社との闘いを対等なものにするべく取り組みをして行く事、新規加入者の要求、団結をどのように取りまとめて行くか執行部共々勉強をしていき24期を盛り上げて行くこと所信表明があり挨拶としました。

来賓の丸山氏(航空連事務局次長)から外交連で事務局次長を務める赤坂委員長へのお礼の言葉をいただきました。それからフェデックス労組でのジャパソンの給与の底上げと組織拡大が外航全体の労働条件をあげて行く上で重要であると述べられました。2点目として、日本航空での乗員、客室乗務員165名の不当解雇問題で3月に裁判所から出された2つの不当判決に対し高等裁判所に控訴しており、さらに日東整の不当解雇も現在裁判で争っていて、これについて引き続きの支援要請がありました。3点目としてフェデックス労組の不利益変更裁判での闘いで、一方的に会社の都合で就業規則を変える事はできないとする判決は産別全体に影響を与えるもので他労組でも活用し広めていくべきであると考えを述べられ、また外航の状況では、不景気に起因して一時金の切り下げやパワハラ、いじめの問題が横行している事に対して闘っていくとの言葉で挨拶をいただきました。

その後、総括案および方針案等について各担当から説明がなされ、参加代議員からの質疑を経て、下記の諸事項が満場一致にて可決承認されました。

第24期役員体制

今総会で第24期役員選挙投票が行われ、全員信任されましたのでここにご報告いたします。

中央執行委員長	赤坂 潤一郎	成田上屋課
中央執行副委員長	道阪 康之	関空輸入上屋課
	大友 琢人	成田整備課
書記長	鈴木 智	成田運航課
中央執行委員	斉藤 吉政	成田上屋課
	南 信一郎	成田整備課
	山本 拓朗	関空TSJフレイト課
会計監査	池永 大輔	成田整備課
	大路 真吾	成田整備課
選挙管理	石川 泰通	成田上屋課 (敬称略)

定期総会の一般質疑の中で名古屋からクーリエ手当の規定が実際の運用に合っていないと指摘がありました。大型手当などと共に実務に携わった割合では無く1日あたりでの手当の運用で考えていく、オペレーション手当での新設などを会社に提案していく事を今後の課題としました。関空輸入通関からは7月から土曜日をクローズする事になったが目的の説明がコロコロ変わりメリットがみえない、逆に、少ない出勤者にしわ寄せがかかっている、実際やってみてそのフィードバックも無いと意見が出ました、こちらは会社との団交の議題として取り上げる事になりました。関空運航課からは前回の団交で取り上げられていますが、朝と夜のシフトでスキルのバラツキがある事について発言がありました、又、スイスポからNTASへ移行する事への不安がある、と関空運航課、上屋課からも意見が出ました。各職場からは組織率を上げる、組合員を増員する、為の方法を模索している意見が多数でした。堂阪副委員長から名古屋、南港、その他の営業所と交流を強化して行きたいと発言があり、会社は南港へ人事を配置すると言う情報もありました。